



『健康は なくして 気づく 宝物』

これは、国民健康保険団体連合会のキャッチフレーズであります。

確かに、元気なときには忘れがちな健康のありがたさを、病気になるって初めて気付くことが多いのではないのでしょうか。

健康は、日常生活で食事や運動、休養などの適度な組み合わせを基本として摂生に心掛けることが、何よりも大切であります。

そこで、「敬老の日」を迎えて、少子高齢社会のあり方を皆さんと一緒に考えてみたいと存じます。

現在、本市には二十人近い百歳超の長寿者がおられますし、本年半寿を迎えられる方が百五十人ほどおられ、ますます長寿社会が進む中で「真の長寿社会」を実現するには、健康寿命を

いかに延ばすかが重要な課題であります。

本市は美濃焼産業を基盤として、家族ぐるみで働く習慣がある所為だとは存じますが、市民一人当たりの医療費が比較的小さいという統計もあり、健康的であると存じます。

“人生八十年時代”を迎え、一層、元気に長生きできる健康寿命に関心を持ちたいものです。



今や、健康は街づくりの基本

と言っても過言ではありません。私事で恐縮ではございますが、年初以来約八kgの減量を行いました。体が良くなり楽に行動ができるようになりまして、摂生による減量の成果に満足いたしております。

さて、本市では健康寿命の延伸、安らぎと潤いのある生活を目指して、温泉利用の保健・福

祉施設や、娯楽・保養・運動施設の整備を推進しております。

その一つは、曾木温泉利用の（仮称）クアハウス曾木であります。

現在、敷地造成中でありますが、露天風呂を中心とするスキンゾーンと、水着着用の水中歩行などの温泉療法中心のバーデゾーンから成る施設を、再来年四月オープン予定であり、濃南地域活性化を目指します。

ため、民間の知恵と活力を導入したいと考えております。

わが国は、間もなく人口減少時代を迎えますが、これからは人々の行き交う交流人口の多寡が活性化の決め手になるといわれます。

幸い、来春には愛・地球博に合わせて東海環状自動車道が開通し、土岐プレミアムアウトレットも開店し、世界の有名ブランド品が格安で購入

健康は なくして 気づく 宝物

——長寿社会に想う——

土岐市長

塚本保夫

できることとなり、中部圏を中心に関西、北陸、信越方面から年間三百万人余の来客が予想されております。

産業観光を念頭に、陶芸と先端技術の融合による交流大地・土岐に磨きをかけ、“住んでみたい街、住んで良かった土岐市づくり”を実現しなければなりませんので、市民の皆さんの一層のご理解ご協

力をお願いいたします。

一方、心配なのは少子化であり、深刻化するばかりであります。

振り返ってわが国の出生数は、戦後の第一次ベビーブーム時期の年間約二百七十万人から、最近では百二十万人台に減少しておりまして、五十年後にはさらに半減するといわれ、日本の将来が心配であります。

これは国の基本に関わる問題であり、国が抜本的方策を講ずるべき国民全体の問題でもあります。

そこで、土岐市としては、子育て支援を積極的に推進するとともに、先端産業の誘致による産業構造の高度複合化を図り、所得保証により若者が定着し他所からも集まる街づくりを進めなければなりません。

若者が希望を持って住める街こそ、高齢者が安心できる街であり、この緑豊かな丘陵地に囲まれた土岐市が、真に安らぎと潤いのある街となるよう願っております。